

### ○遠野産馬、大活躍！

9月13日～15日、静岡県掛川市で開催された全日本障害馬術大会 Part II の内国産障害飛越競技(130cm)でフリーデン・アポロ (JRA 日高育成牧場所属 父フリーデンスラート、母ショコラ) が優勝しました。



内国産飛越競技で優勝したフリーデン・アポロと塚本敏一選手

## 遠野馬通信

馬産地遠野とホースマンを結ぶ  
情報誌

No.35

2019年9月30日

### ○アポロと共にとこまでも



現在フリーデン・アポロは9歳。2011年のセリで JRA が購買し、北海道の日高育成牧場の所属となりました。入厩当時からフリーデン・アポロの調教を担当していた森田泰弘さんの騎乗で2017年の全日本障害馬術大会 II の内国産飛越競技で準優勝。森田さんは「アポロはとても従順で嫌だと反抗したことがない。この6年間僕はアポロに育ててもらった」と話していました。そして今春小倉への転勤を機にアポロは森田さんの後輩・塚本敏一さんに託されたのです。競技終了後、塚本さんに話を伺うと「全日本出場は中学の時以来です。アポロがここまで連れてきてくれました。とにかく前向きな馬で、僕がタイミングをずらして跳べないかなと思っても、アポロはなんとか跳ぼうと足を振り上げます。これからも僕が知らない世界へアポロが連れて行ってくれそうです。アポロを生産してくれた遠野の生産者の方に感謝したいです」と話してくれました。フリーデン・アポロの生産者菊池和一さん(故人)は遠野の乗用馬生産の復興と振興に尽力し、昭和46年の遠野市乗用馬生産組合結成時には副組合長を、

2018年全日本障害出場時のフリーデン・アポロと森田泰弘選手

そして昭和52年から61年まで第2代組合長を務めた方です。3代続く馬産家で小友町にあった種牡馬厩舎の管理もされていました。和一さんは、中央競馬で活躍した希代の障害馬バローネターフの孫にあたるフリーデン・アポロの母馬ショコラを最後まで大切にしていました。今頃アポロの活躍を心から喜んでいるのではないのでしょうか。



写真左：フリーデンアポロの全姉キャラメルリボンと菊池和一さん 2008年10月

写真右：母馬ショコラ(中央鹿毛馬)と当歳時のフリーデン・アポロ(右端) 2010年5月

